
声が聞こえる

早乙女 椎那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

声が聞こえる

【Nコード】

N3732K

【作者名】

早乙女 椎那

【あらすじ】

主人公「俺」と「美香ちゃん」の話。オチがない話ですが、私が書きたいことが分かってくれたら嬉しいですよ。（多分分かりません。）

ただ、書きたくなかったら書きました。

どこからか聞こえる声。という、少し怖い感じで…（実際は怖くないです）

学校の帰りにふと思いついたので…意味がわからなくても、最後まで見て下さい。

ある日の夕方。

多分、小学1年生ぐらいの女の子だろう。

ちよつど、小学生が下校してきていた。

その子だけ、何故か浮いて見える。

俺は、その子の『何か』にひかれて知らないうちに声をかけていた。

「お嬢ちゃん、いいものあげるから、おじちゃんの車にのって」

もちろん、お菓子とか、用意してある。

俺、今、女の子を誘拐しようとしてるんだよね？

俺は急に不安になった。

でも、女の子は嬉しそうに言った。

「えっ？いいもの？ねえっ、本当にいいもの？」

その時、確かに聞こえたんだ。

その女の子の声が。

『いいものじゃなかったらどうしようか。警察に訴える？』

どこからか聞こえてきた。

でも、女の子はニコニコ笑ってるだけで、何も言っていない。

「あ、ああ。いいものさ」

「本当？じゃあ、おじちゃんについていくっ」

女の子はキャッキヤと喜びながら俺の車に乗り込んだ。

前にある、ミラーで女の子の顔をチラチラ見る。

一見普通の女の子。

さっきのは気のせいだよ。

俺は自分に言い聞かせてた。

「あつ。名前は美香だよ」

「美香ちゃんか。可愛い名前だね」

ニコリ笑って見せた。

美香ちゃんはニッコリ笑い『ありがとう』と言ってるような顔でこっちを見てた。

さて、どこに行けばいいだろうか。

一応、近くのデパートに向かっている。

俺は、さっきの『いいものじゃなかったらどうしようか。警察に訴える?』という、言葉が頭から離れなかった。

「何でデパート?用意してないのお?」

「ああ。美香ちゃんが欲しいものを買ってあげようと思ってたのさ」「へえ」

美香ちゃんは、デパートのおもちゃ売り場の所をウロウロしながら、商品とにらめっこをしていた。

俺はちよつとの間、ボーっとしてた。

あれつきり、まだ「あの声」を聞いてない。

やっぱり、気のせいだよな。俺疲れてんのかな。

そう思っていたら、美香ちゃんが俺の方に走ってきた。

「ねえねえ。おじちゃん、これ買って!」

持ってきたのは、子供らしい、おもちゃだった。

値段を見ると、5000円。

子供にしてはちよつと高い。

「ねえ、勝手よお!」

すると、また「あの声」が聞こえた。

『欲しいもの買ってくれるって言ったくせに、買ってくれないんじゃない。やん。やっぱり、私を誘拐したって訴えるの?』

きつい口調だけど、声は確かに美香ちゃんだった。

だが、やはり美香ちゃんはニコニコ笑いながら、俺にねだってる。

俺は怖くなり、結局買うはめになってしまった。

「ありがとう!おじちゃん」

また車に乗り、車を走らせようとした時、美香ちゃんはタクシーに

でも乗ってるように、

「ツヤキスーパーまでお願いしまあすつ」と、可愛い声で言った。

『従わないと、どうなるか…分かるよね？』
また聞こえた。

俺は仕方なく、従った。

立場逆だよな？

それでも、逆らったら、どうなるか分からないから、ツヤキスーパーまで、美香ちゃんをのせて、車を走らせた。

ツヤキスーパーに着くと、美香ちゃんは、車をささっと降り、俺が買ってあげた、おもちゃを抱え、

「ありがとうっ！」

とだけ言って、走り去ってしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3732k/>

声が聞こえる

2011年1月18日22時26分発行